

扶桑町地域公共交通計画策定について

1. 扶桑町の地域公共交通の課題

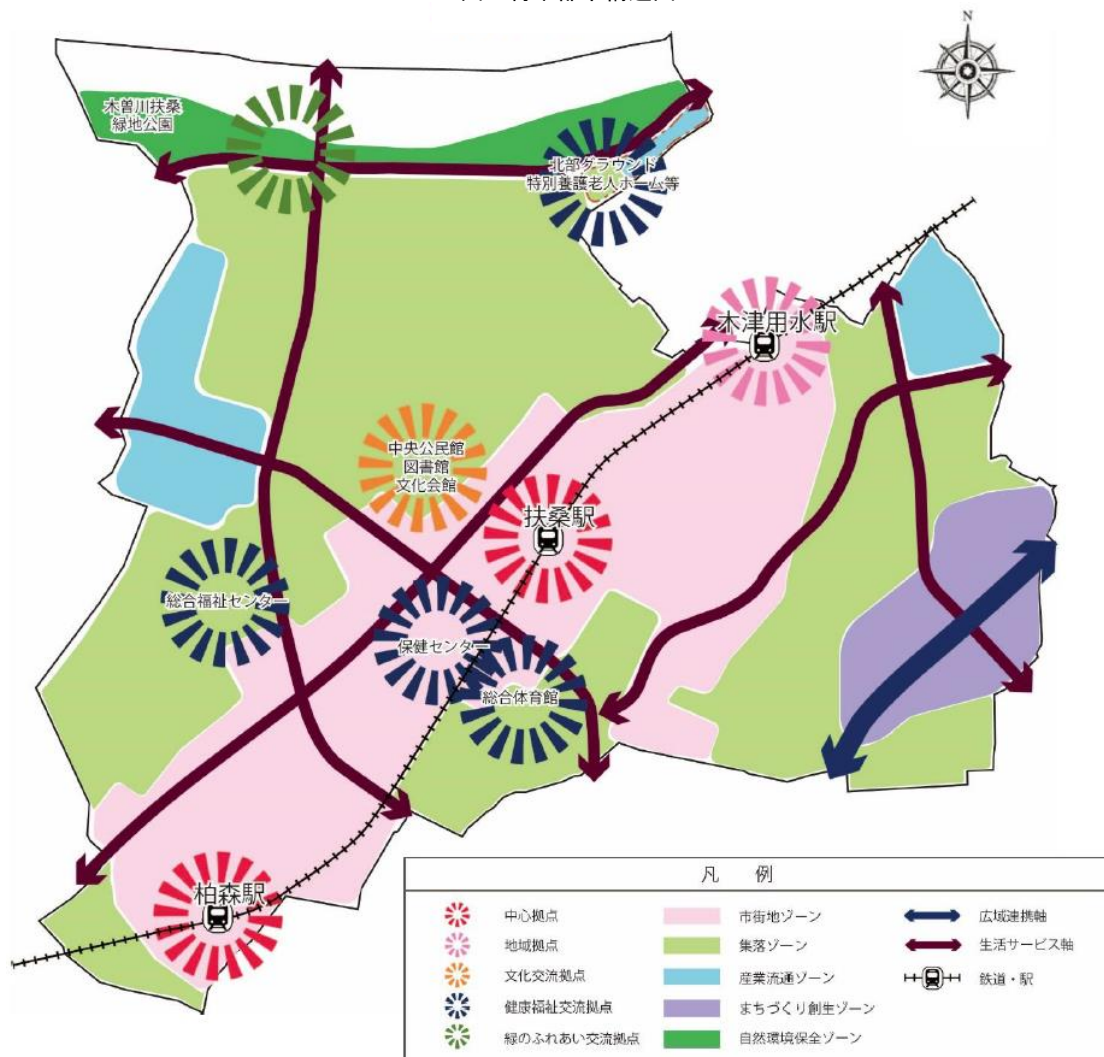
【課題1】扶桑町が目指すまちづくりとの連携

第5次扶桑町総合計画及び扶桑町都市計画マスタープランでは、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりを目指しており、駅周辺の整備推進や公共交通の利便性向上、地域内交通網の形成のための新たな交通手段の導入が位置づけられ、令和4年（2022年）10月からオンデマンド型の乗合交通である「チョイソコふそう」が実証運行を開始し、令和5年10月に本格運行へ移行しました。

扶桑町第8期高齢者保健福祉総合計画においては、公共交通機関等のバリアフリー化の推進やタクシー料金助成事業、福祉有償運送に対する施策が位置づけられており、公共交通分野と福祉施策の連携が必要となります。

このようなまちづくり計画との連携を図り、「みんなの笑顔が かがやくまち 扶桑町」の実現に向けて、公共交通分野の取組みを実施していく必要があります。

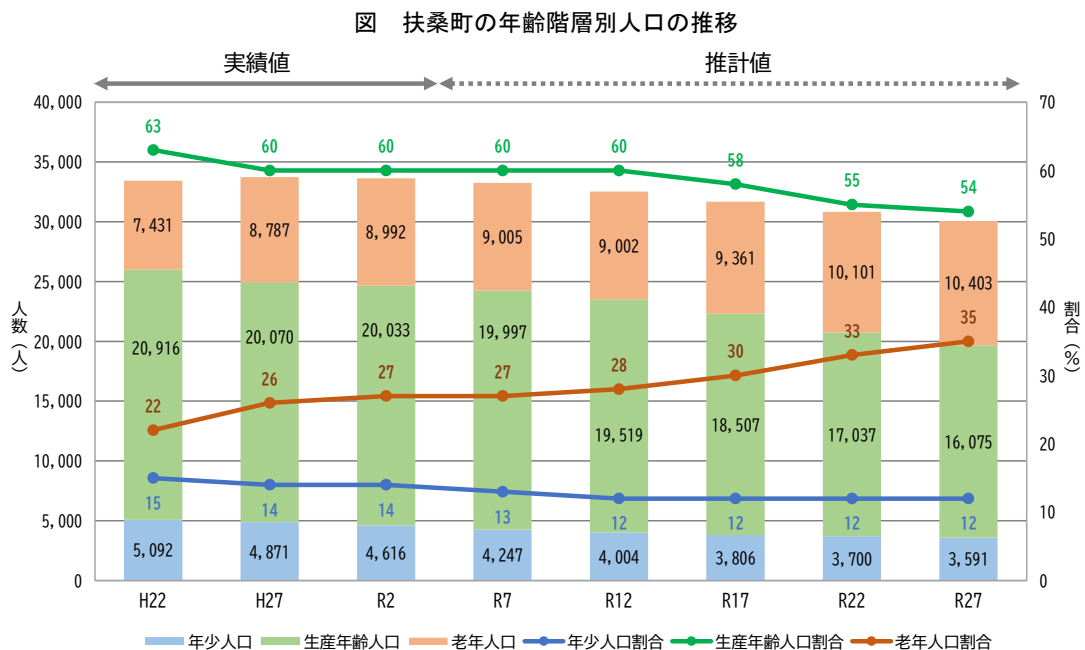
図 将来都市構造図



【課題2】利用者ニーズへの対応

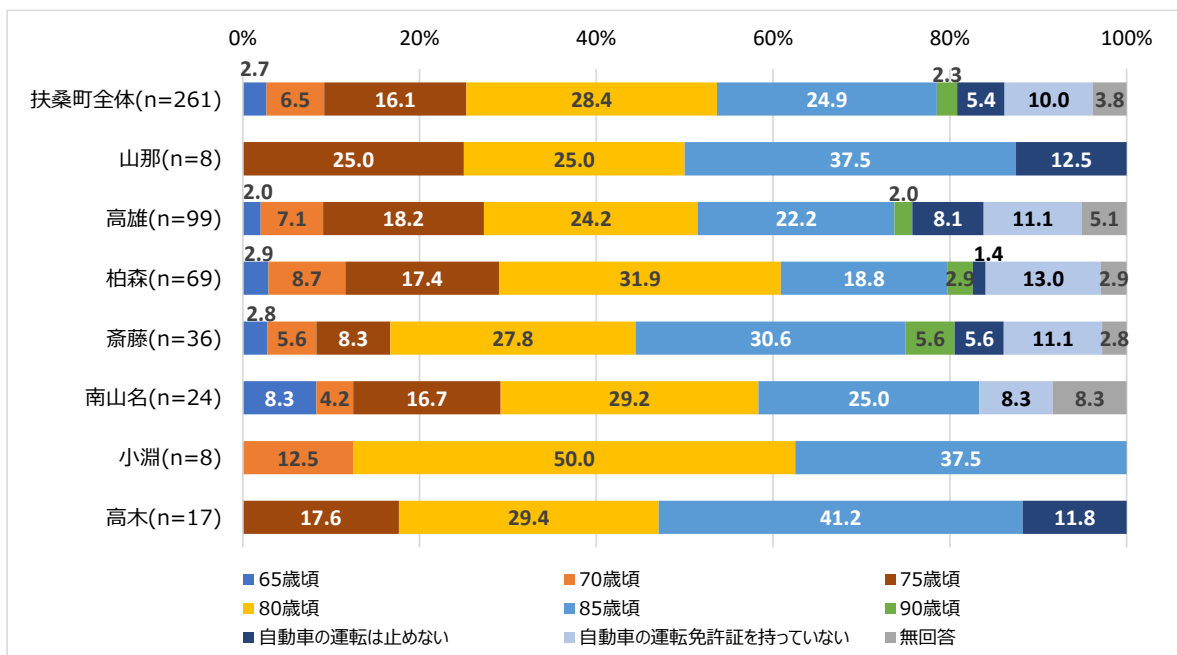
扶桑町の人口は今後減少が見込まれており、高齢者は増加、年少人口及び生産年齢人口は減少傾向にあります。令和22年(2040年)には約3人に1人が高齢者となる見込みです。80歳以上でも自分で運転する意思がある人が多いものの、運転免許返納後の買い物や通院等の自由目的の移動需要に対応する必要があります。

町民アンケートでは、名鉄犬山線、チョイソコふそう、タクシーに対して期待する役割や不満項目がそれぞれ挙げられています。また、町民意見交換会では、チョイソコふそうについて運行時間帯や子どもの利用等への意見が挙げられており、各交通機関の機能を明確化した上で、町民のニーズに対応したサービスを提供する必要があります。



資料：国勢調査（～令和2年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

図 自動車の運転を止めた又は止めようと思う年齢



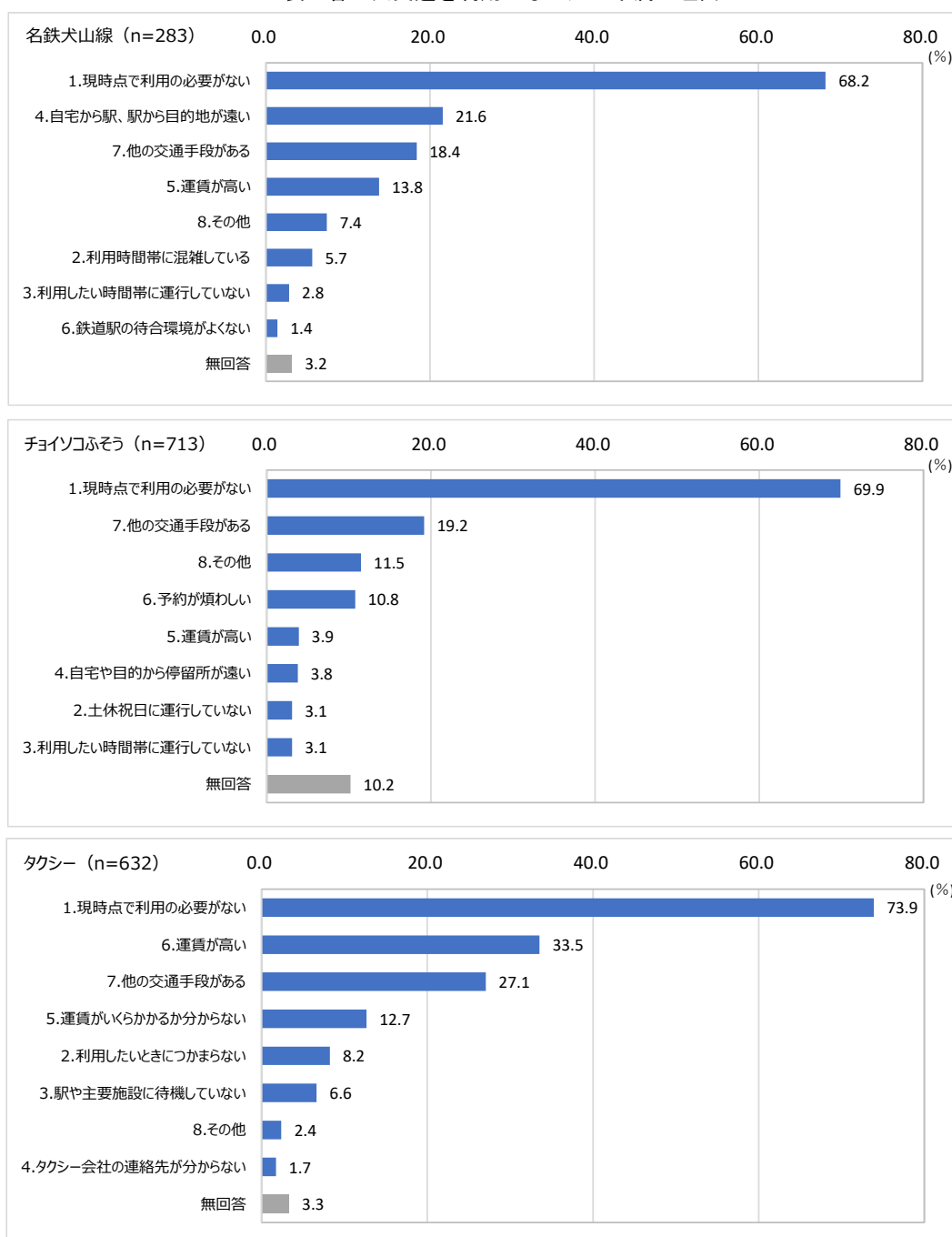
資料：町民アンケート調査

表 各公共交通に対して期待する役割

	1位	2位	3位
名鉄犬山線	通勤・通学するための交通手段	通院・買い物するための交通手段	町外の主要施設へ行くための交通手段
チョイソコふそう	自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段	通院・買い物するための交通手段	町内の主要施設へ行くための交通手段
タクシー	自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段	いつでも行きたいところへ行くことができる交通手段	通院・買い物するための交通手段

資料：町民アンケート調査

表 各公共交通を利用しない又は不満の理由



資料：町民アンケート調査

【課題3】公共交通サービスの維持

新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請や生活様式の変化によって、町内の名鉄犬山線各駅の利用者数は減少しましたが、令和3年度では回復傾向にあり、主に名古屋市等の町外への移動を担う交通手段として機能しています。また、チョイソコふそうは、実証運行開始以降登録者数及び利用者数を伸ばしており、日常の買い物や通院等、主に町内の移動を担う交通手段の一つとなっています。

これらにタクシーを加えた公共交通は町民の暮らしを支える役割として機能しており、サービスを維持する必要があります。

図 名鉄犬山線の利用者数推移

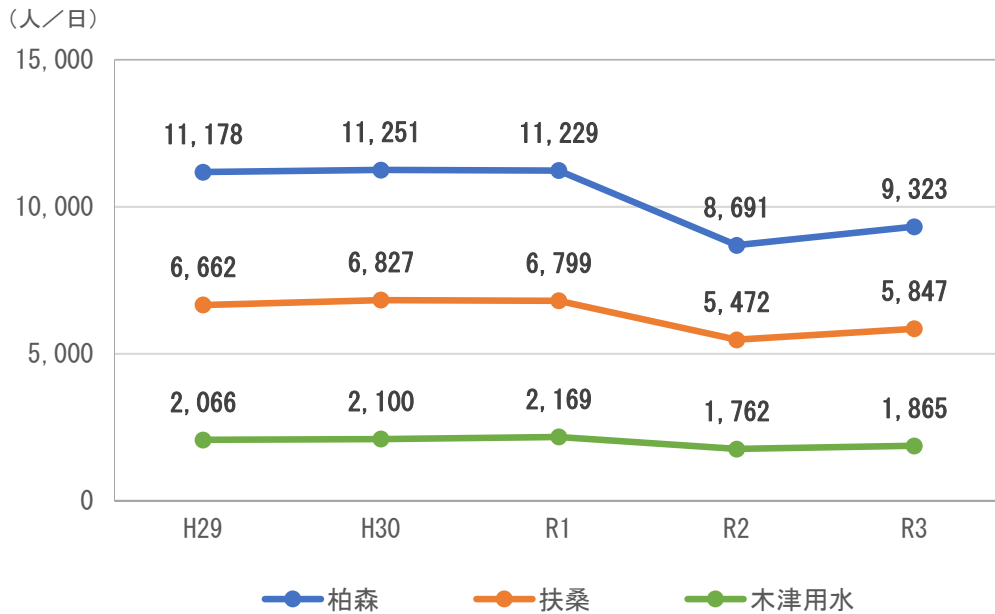
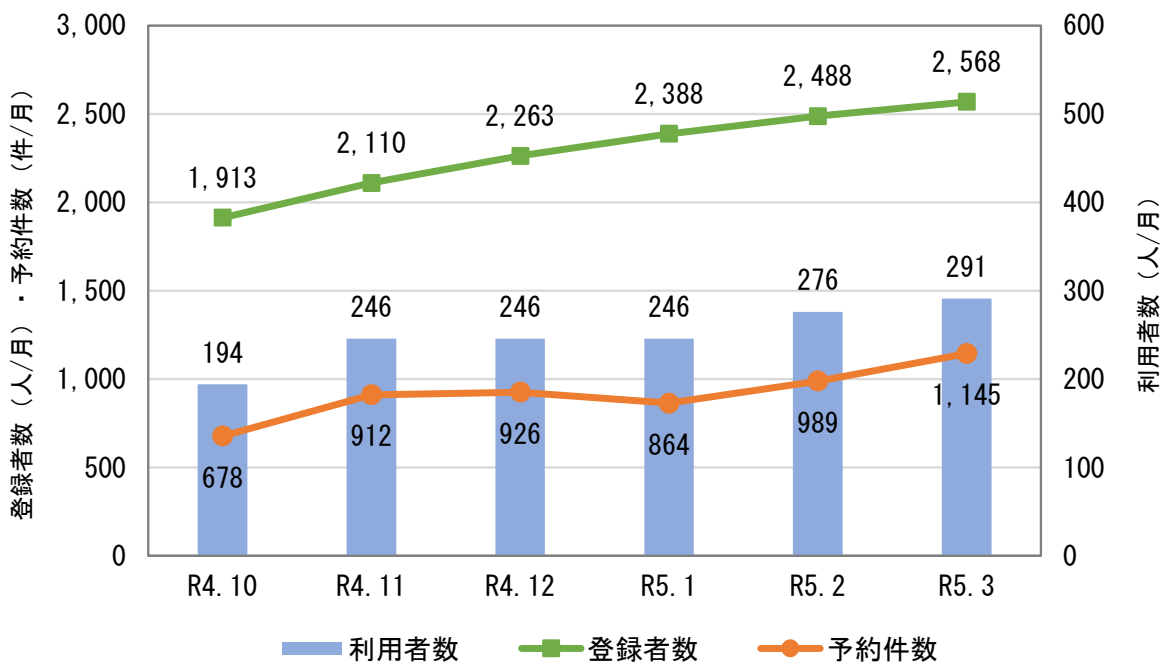


図 チョイソコふそうの利用者数と予約件数推移



2. 計画の区域と期間

本計画の計画区域は、町内の公共交通を一体的に取り扱うことから、扶桑町全域とします。
なお、周辺市町との連携にあたっては、個別に協議・調整を図ります。

計画期間は、第5次扶桑町総合計画（2018～2027年度）や扶桑町都市計画マスタープラン（2022～2031年度）との関係を見据えつつ、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に定められた原則5年間の2024年度から2028年度とします。

3. 扶桑町の地域公共交通が目指す姿

扶桑町は、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりを目指しており、総合計画や都市計画マスタープランにおいて、駅周辺の整備推進や公共交通の利便性向上、地域内交通網の形成のための新たな交通手段の導入が位置づけられ、令和4年（2022年）10月にオンデマンド型の乗合交通である「チョイソコふそう」が実証運行を開始しました。1年間の実証運行期間において、登録者数及び利用者数は増加し続け、町民の移動の足としての定着を確認したことから、令和5年10月に本格運行に移行しました。

町内には、チョイソコふそうの他に公共交通として名鉄犬山線とタクシーが運行していますが、名鉄犬山線及びタクシーの利用者数は減少傾向にあります。また、今後の高齢化の進展による運転免許返納者の増加や、買い物や通院といった自由目的の移動の多様化が想定されます。

こうした課題に対しては、行政や交通事業者がそれぞれ対応するのではなく、利用者や企業、関係団体などを含めた様々な分野の関係者が連携・協働した取組みが必要となります。

このような背景を踏まえ、扶桑町では、名鉄犬山線とチョイソコふそう、タクシーがそれぞれの役割を担ってネットワークを確保・維持し、多様な関係者が連携・協働して、町民の暮らしを支える持続可能な公共交通を目指します。

目指す姿

『みんなが快適に移動できるまち 扶桑』

4. 公共交通の機能分類

扶桑町では、公共交通として名鉄犬山線、チョイソコふそう、タクシーの3種類が運行しています。これらの機能分類を整理し、それぞれの役割を明確化します。

図 扶桑町の将来交通像



表 地域公共交通の役割

	対象路線	役割	確保・維持策
広域幹線	名鉄犬山線	都市間を結ぶ広域的な移動を担う。	需要に応じたサービス水準を確保するため、運行を維持。
地域交流交通	チョイソコふそう	住宅地、町内施設及び江南厚生病院間の移動を担う。	需要に応じたサービス水準を確保するため、国庫補助（フィーダー系統）を活用しながら運行を維持。
	タクシー	名鉄犬山線やチョイソコふそうが運行していないエリアや時間帯の移動を担う。	需要に応じたサービス水準を確保するため、運行を維持。

5. 基本方針

【基本方針1】まちづくりを支える公共交通ネットワークの確保・維持

上位・関連計画が目指す鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりを支えるため、名鉄犬山線、チョイソコふそう、タクシーによる相互連携を深め、名鉄犬山線による広域移動を担う名鉄犬山線、主に地域内の移動を担うチョイソコふそう、それらを空間的、時間的に補完するタクシーから形成される地域公共交通ネットワークを確保・維持します。

評価指標1	公共交通利用者数
目標値	21,000人／年
現況値	20,033人／年

※鉄道（柏森駅、扶桑駅、木津用水駅）、チョイソコふそうの利用者数合計

施策案

- 1－①名鉄犬山線の運行の確保・維持
- 1－②チョイソコふそうの運行の確保・維持・改善
- 1－③タクシーの運行の確保・維持
- 1－④町内公共交通の連携強化
- 1－⑤パーク&ライド、サイクル&ライドの推進

【基本方針2】町民のニーズに対応した公共交通サービスの提供

増加する高齢者の主な外出目的である買い物や通院は、町内の商業施設や医療施設を目的地とする近距離移動が中心ではあるものの、目的地となる施設は多種多様となっています。また、子育て世代からは、子どもの送迎や子どもだけでも安全に利用できる公共交通サービスを求める声が挙げられており、多様化する移動ニーズに対応した公共交通サービスを提供します。

評価指標2	公共交通の不満足度
目標値	現況値以下
現況値	10.5%

※扶桑町の公共交通に関する町民アンケート【問3 扶桑町の公共交通の満足度】において「やや不満」+「不満」の回答割合

施策案

- 2－①高齢者のニーズに対応したサービスの改善
- 2－②子どもが安心・安全に利用できる公共交通サービスの提供
- 2－③公共交通に関するわかりやすい情報提供

【基本方針3】あらゆる分野の関係者の連携・協働

新型コロナウイルス感染症の流行による公共交通利用者数の大幅な減少や、燃料費の高騰、タクシー運転手の人材不足等、公共交通を取り巻く状況は厳しさを増しています。こうした加課題に対して、交通事業者や行政だけでなく、利用者である地域住民、地域の企業、関連団体等、あらゆる分野の関係者が連携・協働し、公共交通サービスを維持するための取組みを検討・実施します。

評価指標3	関係者が連携・協働した取組み件数
目標値	5件/年
現況値	—

施策案

- 3-①チョイソコふそうのスポンサー企業と連携した利用特典やイベントの実施
- 3-②子どもを対象とした公共交通の乗り方教室や交通安全教室の開催
- 3-③運転免許返納者への支援
- 3-④あらゆる関係者が連携・協働した利用促進策の実施

<確認指標>

確認指標1 各交通モードの年間利用者数

基準値	名鉄犬山線	柏森駅	9,323人 (R3)
		扶桑駅	5,847人 (R3)
		木津用水駅	1,865人 (R3)
	チョイソコふそう		2,998人 (推計)
	タクシー		

確認指標2 チョイソコふそう利用者一人あたりの町負担額

基準値	
-----	--